



NO. 941  
2013・10・20  
発行所  
日本共産党  
網走市委員会  
網走市北八西三  
四三三・四四三八  
F 四三三・四四五七



### 松浦議員の一般質問その2

## 能力に応じた保険料に！

2項目は、  
国民健康保険制度についてです。

現行の保険料は標準3人世帯で所得150万円の世帯が31万5,900円と高く、滞納もこの階層が多いのではないかと質問しました。

答弁では、ご指摘のとおり保険料の所得に対する負担料は高い。

全体の収納率が93.59%に対し、この階層の収納率は89.09%と他の所得層より低い状況にあるとのことでした。

次に、網走市の国保料算出は所得割が低く、資産割のほか均等割など応益割が高い。これでは低所得・中間所得層に負担が重くなると改善を求めました。

答弁では、国保法施行令で応能・応益割を50対50とするとある。当市は他市より一人当たりの平均所得が高いため特定財源の普通調整交付金が高市より低く、結果的に均等割、平等割が高くなると答えました。

それに対して、そこを英知を絞って低所得・中間所得層へ負担が重くならないように努力すべきだと、さらなる検討を求めました。

### 生活扶助費の

## 削減は許されない！

3項目は、  
生活保護費の削減問題です。

今年8月から実施された生活扶助費の削減の、実態について質問しました。

答弁では、41歳〜59歳代の夫婦と子ども2人の4人世帯では月額5,470円の減額となる。

来年以降については、正式に示されていないが、現状のままだと来年は月額10,940円、再来年では月額17,720円が減額となると答えました。

この実態からも影響の大きさが明らかであり、生活扶助費の削減は許されないと国への対応を求めました。

安倍内閣は、国民には消費税増税し社会保障費は削減、一方、大企業には復興減税をはじめ法人税の減税など、逆さまな政治を進めている実態を告発しました。

### いよいよ東奔西走

夏季五輪の東京開催が決まっ  
てからのメディアのはしやぎ  
ぶりは異常です。IOC(国際  
オリンピック委員会)決定  
から1ヶ月以上経つというの  
に新聞、テレビの批判精神を欠いた五輪招致持ち上  
げ報道は延々と続く。特に国体の時期と重なったの  
で、大会そのものを華美にならず質素を求めてきたの  
が五輪に便乗して派手になったとか。こうした異  
様な雰囲気には違和感をもつ人も多い。

ある識者は全国紙大手新聞で「メディアあげての五輪歓迎報道に異論もかすみ、祝賀ムードの前に反対者の声はさらに抑圧されるのか。少数意見、批判しにくい案件にこそ耳を傾けてほしい」と切望していた。アスリートたちが五輪・パラリンピックで活躍する姿は誰だって見たい。息詰まる熱戦に勇気をも  
らうこともあるだろう。

しかし、心から歓迎出来ない理由は、招致の決め手となつた安倍首相の「福島第一原発の放射能汚染水は、コントロールされ、完全にブロックされている」発言が逆に不信を招いている。その後の事態はそれを裏付けしている。安倍首相はフェアでないし、五輪精神をも辱めている。

### 松浦奮戦メモ

インドネシア・バリ島  
で8日、TPP交渉に参  
加する日米など12ヶ国  
の首脳会合が開かれまし

た。日本の政府・自民党がこれまで「守るべきものは守る」と公約してきたコメや乳製品などの重要5項目で譲歩する姿勢をみせていることに、「公約まで投げ捨てるのか」と強い怒りの声が上がっています。TPP交渉にあわせてインドネシアを訪問していた自民党の西川公也TPP対策委員長は、「農産品の重要5項目を関税撤廃の例外から抜けるか、抜けないか、検討はさせてもらわなければならぬ」「どんな小さな状況も勘案しない姿勢をとり続けられるかという問題がある」と発言。しかし、自民党は、昨年の衆議院選で「聖域なき関税撤廃」を前提にする限り、TPP交渉参加に反対と明記。7月の参院選でも「守るべきは守る」と公約していますから、直ちにTPP交渉から撤退すべきです。

### 氷流

団結こそ力  
日本共産党准中央委員  
道政策委員長

### はたやま和也

本格的な秋ですね。私の子どもたちが通う保育園の運動会は、三年連続で雨のため体育館でしたが今年は青空の下で！やつぱり外で駆ける子どもたちの姿を見れるのは嬉しいものです。

二歳の息子は、登った戸板からヘッドスライディングのように滑って下りました。学童リレーに参加した小二の娘は「いつの間にかこんな早く？」と驚くほど、グラウンドを駆け抜けました。それぞれの成長の早さに、目を奪われた一日でした。

数日後、福祉・保育現場で働くみなさんとの「つどい」に参加しました。子どもたちや障害を持つ方々と接する喜びとともに、だからこそ労働現場を良くしてほしいと意見が続きました。「職場は半分以上が非正規。若い人たちがかわいそう」「少ない人数で疲れ果て、腰痛を訴える人も多い」「早く仕事が終わればなあ」と時計を見る」など、切なくも率直な思いを聞きました。

保育園でも学童保育でも、「子ども時代」にしか体験できないことを保障しようとして一生懸命です。福祉や介護の現場でも「人と人との関わり」が大事にされています。現場を一番そまっにしてるのは、政治の方ではないのでしょうか。「うちの職場もブラック企業みたい」と発言された方もいましたが、今の安倍政権こそ私は「ブラック政権」と言いたい。

一人ぼっちの仲間を声にかけて団結しよう——これが「つどい」の結論となりました。安倍政権の暴走を許さない反撃は、間違いなく広がっています。